

保存修理の現場

Myouhou-in Temple

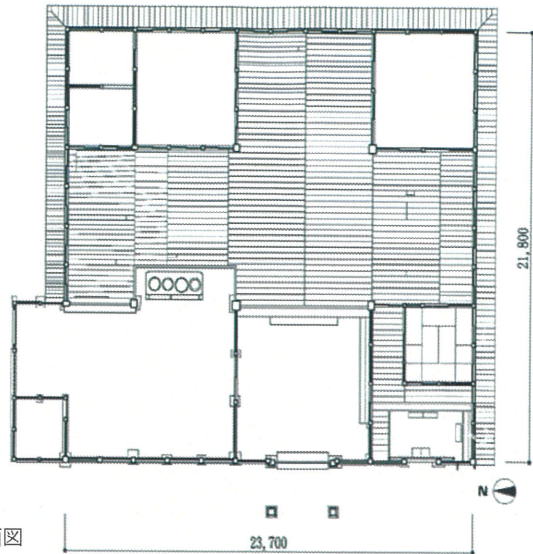
みょうほういん

妙法院 庫裏

京都市東山区

桃山時代

事業期間：令和2年11月～令和9年3月（予定）



平面図

妙法院は京都市東山区にある天台宗の寺院で山号を南叡山と号します。法脈の初代は最澄で、平安時代末期に16代の昌雲が、後白河院の護持僧として法住寺御所にて従事し、近辺に居を移したのを寺院の始まりとしています。その後、鎌倉時代に京都綾小路小坂（八坂神社の南西付近）に移転し、このころから、妙法院御所と号したようです。三千院・青蓮院とともに、天台宗三門跡の一つとして数えられます。桃山時代には、豊臣秀吉による方広

寺大仏殿の建立に伴い、現在地に移転されたと伝わりますが、詳細なことはわかっていません。境内には庫裏のほか大書院や玄關（いずれも重要文化財）が建ち並びます。庫裏は正面23・7メートル、奥行き21・8メートルで、この種の建物としては巨大なものです。屋根は入母屋造、本瓦葺とし、頂部と北面には煙

庫裏

国宝 《修理中》

出しを設けています。建物は西を正面とし、正面側には唐破風造の玄関が取り付きます。内部は西寄りの土間にカマドを設け、中央から東寄りには板間を設け、これらの上部には天井を設けずに小屋組をあらわし、壮大な空間を演出しています。

この建物は文禄4年（1595）に豊臣秀吉が祖父父母の供養のために、天台・真言・律・禅・浄土・一向・時・日蓮の八宗からそれぞれ100人、計800人の僧を集め「千僧供養」を行った時、集めた僧の食事を準備するために建てられたと伝わっています。

修理の内容

小屋組を支える梁に亀裂が、その下部に設けられた指貫にもたわみと亀裂が生じていました。また、建物



庫裏 修理前 外観

全体の傾斜も生じていました。このため、半解体修理工事を実施中です。

令和4年度までに、建物全体の傾斜の修正を行ったほか、小屋梁の交換・補修・組立と軒廻りの補修・組立を行いました。

令和5年度は、修理を終えた小屋梁の上に小屋組を組み立てます。併せて頂部に建つ越屋根や北流れにある煙出しも組み立てる予定です。



庫裏 柱根継加工状況



庫裏 梁組立中の状況



庫裏 梁組立完了の状況

